

Annie Laurie

アンニー・ローリーは、マクスウェルトン卿のサー・ロバート・ローリーの末娘として1682年に生まれた。スコットランド中に知られた美人だったといわれている。詩は、1700年ごろに書かれたものである。言い伝えによれば、ウィリアム・ダグラスは彼女に結婚を申し込んだが、歳の差、彼女がまだ若すぎることに、政治的な立場の相違などで、マクスウェルトン卿から強く反対され、その後別の女性と出会い駆け落ちをした。一方、アンニー・ローリーは、1710年にクレイグダーロックの領主のもとに嫁ぎ、約33年間そこで暮らした。彼女のために大邸宅が建設され、彼女の好みで作られたという庭園も残されている。マクスウェルトン・ハウスには、今も彼女の肖像が残されており、その昔ウィリアム・ダグラスの心を取りこにしたという青い瞳の佳人の姿をうかがい知ることができる。

曲は1838年2月にスコットランドの女流音楽家ジョン・ダグラス・スコット夫人 (1810 - 1900) が作曲。そして、1854年のクリミア戦争で、未亡人や孤児となった人たちへの慈善活動のために出された歌集にこれが載せられたことから、やがて軍楽隊も演奏するようになり広く知られるようになった。戦地の兵士たちもこの歌を口ずさみ、故郷にある大切な人をしのんだという。

Alicia Scott

arr.by Natsuki Hosaka

さらに、明治初期の日本には、まったく別の歌詞で伝えられたようである。また若干旋律を変更して下記『才女』として歌われた。

piano intro. Dm Bb F/A Dm Gm C



4 F flute F Bb



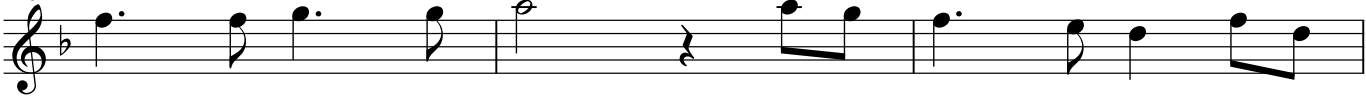
7 F/A Dm Gm C7 F Bb



11 F/C C7 F F C7 F



15 Dm Gm7/Bb A Dm Bb



Annie Laurie

18 F/A Dm Gm C7 F F7

21 Bb Eb Bb/D Gm

24 Cm7 F7 Bb Eb

27 Bb/F F7 Bb Bb F7

30 Bb Gm Cm7/Eb D7

33 Gm Cm7/Eb Bb/F Gm Cm7 F7

36 Gm C7/E Bb/F F7sus4 Bb

rit.